



じもと

HOLDINGS

2021.3

MINI DISCLOSURE

じもとホールディングスミニディスクロージャー誌



きらやか銀行



仙台銀行



平素より格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

じもとグループは、本年度で設立10年の節目を迎えます。この4月に新たなグループ経営指針となる新中期経営計画（期間：2021年度～2023年度）をスタートいたしました。

新たな計画では、経営理念である「宮城と山形をつなぎ、本業支援を通じて、地元中小企業や地域に貢献する」のもと、コロナ禍の対応を重要課題とし、次の5年、10年後も見据えて、「本業支援の深化」「業務変革（DX）」「経営管理」を計画の柱に掲げました。

「本業支援の深化」では、コロナ禍の影響が長期化

する中、中小企業の皆さまに対して、資金繰り支援に加え、経営改善支援を多面的に展開し、お取引先の業況改善に積極的に貢献いたします。

「業務変革（DX）」では、急速な環境の変化を踏まえ、DX・ITを活用し「店舗戦略」「業務効率化」「人員戦略」を一体で進め、グループ全体で一層の統合効果を追求してまいります。

「経営管理」では、グループ会社管理や監査態勢、リスク管理の強化など、ガバナンス態勢の実効性を高め、ステークホルダーからの支持・信頼の向上につなげてまいります。

これら計画の推進にあたっては、資本業務提携先のSBIホールディングス株式会社から、同社の持つ

先進的なテクノロジーや知見を幅広く導入。人材派遣も通じてレベルアップを図り、計画実現へのスピード力を高めていく考えです。

また、新中期経営計画の策定に合わせ、新たな役員体制となりました。

じもとグループは、新中期経営計画を通じて、これまで以上にお取引先に寄り添いながら、コロナ禍の難局を乗り越え、「お取引先、地域社会、じもとグループ」が互いに発展する共通価値の創造の実現に向けて、役職員が全力で取り組んでまいります。

皆さま方におかれましては、今後ともさらなるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「ごあいさつ」

(2021年3月31日現在)



本社所在地 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
 電話番号 022-722-0011(代表)
 設立年月日 2012年10月1日
 資本金 187億50百万円
 上場取引所 東京証券取引所
 ホームページ <https://www.jimoto-hd.co.jp/>



本店所在地 山形市旅籠町三丁目2番3号
 電話番号 023-631-0001(代表)
 設立年月日 2007年5月7日
 資本金 242億円
 預金・譲渡性預金 12,765億円
 貸出金 10,100億円
 従業員数 883人
 店舗数 117カ店(県内98カ店、県外18カ店、その他1カ店)
(注) ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による
 実質店舗数は60カ店(県内43カ店、県外16カ店、その他1カ店)。
 ホームページ <https://www.kirayaka.co.jp/>



本店所在地 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
 電話番号 022-225-8241(代表)
 設立年月日 1951年5月25日
 資本金 227億35百万円
 預金・譲渡性預金 11,939億円
 貸出金 8,367億円
 従業員数 734名
 店舗数 72カ店(注)
(注) ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による
 実質店舗数は50カ店(うち出張所1カ店)。
 ホームページ <https://www.sendaibank.co.jp/>

CONTENTS

ごあいさつ	巻頭
会社概要	01
新中期経営計画	じもとホールディングス 02
	きらやか銀行 04
	仙台銀行 05
じもとホールディングス	
トピックス	06
業績ハイライト	07
きらやか銀行	
本業支援事例	08
トピックス	09
仙台銀行	
本業支援事例	10
トピックス	11
業績ハイライト	きらやか銀行 12
	仙台銀行 13
株主の皆様へ	巻末

株式会社じもとホールディングス社長
 株式会社仙台銀行頭取

鈴木 隆



株式会社じもとホールディングス会長
 株式会社きらやか銀行頭取

川越 浩司



じもとホールディングス 新中期経営計画

計画期間 2021年4月～2024年3月

- コロナ禍への対応を重要課題とし、グループの強みである「本業支援」をさらに深化させ、お取引先に貢献します。
- 次の5年、10年後を見据え、SBIグループ連携を積極活用し、業務変革のスピードアップ、経営管理の高度化を図ります。
- これらの取り組みを通じ、取引先業況の改善、グループ収益改善へつなげる「共通価値の創造」の実現を図り、業績回復を目指します。

じもとホールディングス(連結) 収益計画及び経営指標

	2021 3月期 (始期)	2022 3月期 (計画)	2023 3月期 (計画)	2024 3月期 (計画)
※1 コア業務純益	46億円	55億円	62億円	71億円
当期純利益	△31億円	31億円	37億円	45億円
※2 コアOHR	83.5%	80.7%	78.7%	75.8%
※3 顧客向けサービス 業務利益 (2行合算)	15億円	14億円	19億円	28億円

※1・2 投信解約益等(投信解約益+債券売却益)を除く

※3 顧客向けサービス業務利益
= 貸出金残高×預貸金利回差+役員取引等利益-営業経費

経営理念

宮城と山形をつなぎ 本業支援を通じて 地元中小企業や地域に貢献

コロナ禍 変革待ったなし

5年、10年後の想定社会が一気に到来

行動パターン急変(非対面、非接触、分散)

中期経営計画方針

「コロナ禍へ対応」 ・ 「グループの強みに特化」 ・ 「じもとHD、次の5年・10年へ」

本業支援の深化

コロナ禍、いまこそ
「本業支援」

経営改善・事業再生

資金繰り支援

仙台地区戦略

業務変革(DX)

新たな業務プロセス
効率化、サービス拡充

店舗戦略見直し・人員戦略

業務プロセス見直し

コスト削減

経営管理

ガバナンス態勢の実効性向上
子銀行管理・グループ監査

資本政策

SDGs・ESG

新しい働き方・人材育成

SBIグループ連携の積極活用

FinTech技術・外部知見・人材派遣 / レベルアップ・スピードアップ

目指す姿 (共通価値の創造)

取引先の業況改善・地域発展

当グループ収益改善

きらやか銀行 中期経営計画

経営理念

“私たちの想い”

本業支援を通して
地元の「中小企業」と「そこに働いている従業員の皆さま」から喜んでいただき
地域と共に生きること。

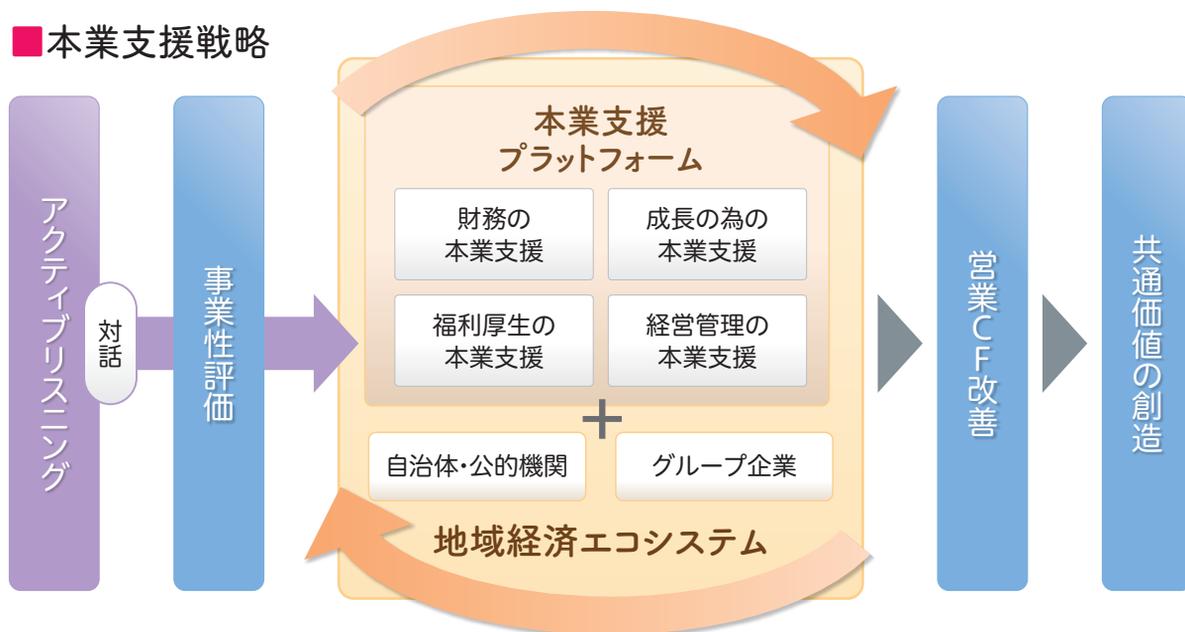
当行が目指す姿

「本業支援業の確立」を通じて経営理念を実現し、地域と共に生きる

当行が
すべきこと

お客さまの稼ぐ力の強化に向けた組織的・継続的な取組み

■ 本業支援戦略



※地域経済エコシステム

当行による中小企業の営業CFの組織的・継続的な改善への取組みが起点となり、企業業績、従業員所得、雇用がプラスに働き、その結果新たな設備需要、消費行動が促されることで地域経済が活性化します。

仙台銀行 中期経営計画

経営理念

宮城県の中小企業の支援・育成 — 行是「信為萬事本」(しんをばんじのもととなす) —

当行が目指す姿

“人で勝負する銀行”を発展させ、本業支援を通じて、地元の復興と活性化に貢献する

中期経営計画の
スローガン

人で勝負する銀行の深化 ~ Speed & Challenge ~

お客さまの経営課題を聞く機会を増やし、スピード感のある対応を強化するとともに、お客さまの多様なニーズに応える本業支援や、新たな生活様式への変革、業務効率化や渉外人員増加による営業力強化にチャレンジします。

Speed & Challenge

環境・顧客ニーズへの速やかな対応

環境・顧客ニーズに応じた進化への挑戦

効率化・選択と集中

店舗戦略

事務の効率化

人員の
適正配置

三位一体の効率化

IT・FinTechの活用／新分野への取組み

顧客利便性向上
(非対面サービスの充実)

業務効率化
(デジタル化を基としたBPR)

データの蓄積
分析・活用

DXの実現・SBIグループとの連携

コア戦略の推進／中小企業向け貸出増強

渉外人員増加とスピード
回答でコア取引先を増加

重点先への
本業支援強化

消費者ローンの
推進

本業支援サイクル確立・メイン化推進

トライアングル戦略の深化

当行・お客さま・地域社会の持続的な成長の実現へ!!

※コア戦略

当行の取引の中核となる取引先を定め、本業支援による課題解決・複合取引の拡大により取引の深化を図るとともに、新規取引先の増加により顧客基盤の強化を図る戦略。

SBIグループとの連携

じもとホールディングスは、2020年11月SBIホールディングスと資本業務提携契約を締結しました。

SBIグループの様々なスキルやノウハウを積極的に活かすべく、多方面での連携を進めています。



主な取組み

- SBI役員2名がじもとホールディングスおよび子銀行の主要会議にオブザーバーとして出席し、活発に意見・情報を交換。
- SBI地方創生アセットマネジメント等と連携し、両行の有価証券ポートフォリオのリバランスを実施。市場変動に左右されない安定的な収益確保に向け、市場情報交換を更に深化。
- 両行職員をSBIヘトレーニーとして派遣し、多様なノウハウを吸収。
(有価証券運用業務：SBI地方創生アセットマネジメント／M&A業務：SBI証券)



連携イメージ▲

じもとホールディングス連結業績

(単位:百万円、%)

	2021年 3月期	前年同期比	増減率	2020年 3月期
	連結経常収益			44,089
経常利益	△2,275	△4,847	—	2,571
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△3,176	△4,910	—	1,733

きらやか銀行・仙台銀行(単体)の2行合算

(単位:百万円、%)

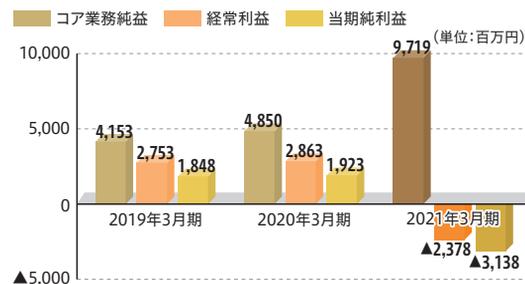
	2021年 3月期	前年同期比	増減率	2020年 3月期
	経常収益			38,762
業務粗利益	25,230	△3,005	△10.6	28,236
経費 (除く臨時処理分)	23,060	△853	△3.5	23,914
コア業務純益	9,719	4,869	100.3	4,850
除く投資信託 解約損益	7,461	3,651	95.8	3,810
経常利益	△2,378	△5,241	—	2,863
当期純利益	△3,138	△5,061	—	1,923
貸出金	1,846,804	79,406	4.4	1,767,398
預金 (譲渡性預金を含む)	2,470,525	148,895	6.4	2,321,629
有価証券	544,252	84,945	18.4	459,307

経常利益は、きらやか銀行において有価証券関連損失を計上したことなどから△22億75百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は△31億76百万円となりました。

2行合算の経常収益は、前年同期比16億67百万円増加の387億62百万円となりました。

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、貸出金利息及び手数料収入増加のほか、投資信託解約益の計上や住宅ローン債権の証券化を実施したことなどから、前年同期比48億69百万円増加の97億19百万円となりました。

経常利益は、前年同期比52億41百万円減少の△23億78百万円、当期純利益は前年同期比50億61百万円減少の△31億38百万円となりました。



本業支援業の確立に向けて ～ 共通価値を創り出す伴走支援 ～

中村塗料販売株式会社様は酒田市に本社を置き建設塗料や自動車補修用塗料を中心に卸売を行っております。2020年6月に当時常務であった伊藤氏が事業を引き継ぎました。コロナの影響を受ける中、強い危機感を持っていた社長は経営に対し色々な意見を取り入れていきたいという考えをお持ちでした。このため当行は社長と想いを共有していくための提案を行いました。



中村塗料販売株式会社様 ▲

Point 1 経営管理の本業支援による課題の共有化

当行では社長と目標を共有し、一緒に課題解決していくため「経営管理の本業支援」の導入を提案しました。これにより事業性評価や毎月経営会議を実施することで、事業計画の進捗管理や金融機関目線でのアドバイスを行い、悩み・課題について社長と想いを共有することが可能となりました。

Point 2 財務の本業支援による資金繰り支援

同社と課題を共有する中で、新型コロナウイルスの影響を受けたこともあり、社長の営業にかかる時間を創出したいという想いから財務の本業支援による資金繰り支援に着手しました。

事業性評価による同社の将来性を加味した運転資金に加え、既存借入のリファイナンスによるCF向上を図り、財務面を強化しました。

Point 3 成長の為の本業支援による稼ぐ力の強化

同社の更なる体制強化のため、当行業務提携先を紹介し、就業規程の見直しを実施し内部管理を強化しました。また補助金申請支援、当行取引先とのビジネスマッチングによる販路拡大支援等設備導入や売上拡大支援を行ってまいりました。今後については当行の子会社であるきらやかコンサルティング&パートナーズ (KCP) と連携し、同社の発展に向けたコンサルの提案を行ってまいります。

当行ではこれからも、お客さまの業績や内部管理体制強化等様々な側面から本業支援を実施することで業容拡大や事業展開を生み出し、お客さまと当行がWIN-WINとなる共通価値を創造してまいります。

創業は1951年で、きらやか銀行には長年に渡りお世話になっております。

私は2020年6月に社長に就任したばかりで、コロナ禍の中、当初は毎日が不安でありましたが、経営に対する様々なアドバイスにより、その不安を取り除くことが出来ました。我々地元企業と地域金融機関は「共存共栄」の関係にあります。

これからも地元に対する「本業支援」に期待しています。



中村塗料販売株式会社
代表取締役 伊藤 裕介様

担当者の声

従業員と共に生きる覚悟をもった経営者の皆さまに少しでも力になれるよう必死に考えて毎日の営業活動をしております。銀行員として覚悟をもって接することで社長も心を開いてくれると思っております。今後もお客さまに対して何を提供できるかを考えて本業支援を実践し続けていきたいと思っております。

旧所属：
きらやか銀行 酒田支店

現所属：
本業支援本部 本業支援戦略部
コンサルティンググループ
井上 知将 主任



新サービス「共に生きるクラブ」を設立いたしました

本業支援の結集と強化により、お客さまを支援していきたいという想いから2020年10月1日に「共に生きるクラブ」を設立しました。会員制サービスとなる「共に生きるクラブ」はこれまでの本業支援に加え、会員限定で「経営管理の本業支援」「プレミアム本業支援」「きらやかアプリ」のサービスを提供しております。

本サービスを通じて、これまで以上にとことん寄り添い、事業についてしっかりと話を伺い、時には議論を交わしながら、お客さまが抱える問題の解決を図ってまいります。



「ふっくりパッケージ」のサービス充実

2019年よりサービスを開始しました「ふっくりパッケージ」はお取引企業様と連携し、お得な優待サービス「ふっくり保養施設」を追加しました。また、コロナ禍において充実させたオンラインサロン等のイベントサービスもご好評いただいております。今後も「ふっくりパッケージ」はさまざまなサービスを随時追加し、契約企業様の福利厚生充実による企業価値向上に資するサービスにまいります。



コンサル機能の拡充

お客さまから相談いただく様々なコンサルニーズに対応するため、関連会社であるきらやかコンサルティング&パートナーズ (KCP) の人員を増員し組織体制を拡大しました。新たに女性担当者も加え、女性活躍の場を広げております。

メニューにつきましてもこれまでの「事業承継、M&A支援」「経営改善支援」「人材育成支援」に加え「人事制度、プロモーション支援」など新しいものを加え、お客さまの稼ぐ力を高めるため課題解決のサポートに邁進してまいります。



女性担当者も加わり増員したKCP

これからも ともに歩む ～ 震災復興から地域活性化へ ～

株式会社八葉水産様は、気仙沼市を代表する水産加工食品の製造販売業者です。2011年3月の東日本大震災の津波により、生産設備が全壊するなど大きな被害を受けました。

仙台銀行は、復興の各段階において様々な支援を行ってきました。



八葉水産様▲

Point 1 設備復旧と販路回復・拡大支援

仙台銀行をはじめとした金融機関からの資金調達等により、同社は生産設備の復旧を果たし、気仙沼地域ではいち早く事業を再開しました。

当行は、商談会や販売会のサポートを通じて販路回復・拡大を支援しました。



販売会では当行職員も店頭立ち、商品をPRしました。

Point 2 二重ローン対策支援

同社は、震災前からの金融債務も抱えており、事業継続において二重債務の解消が課題となっておりました。このため、東日本大震災事業者再生支援機構に支援の相談を行い、抜本的な事業再生に取り組むため、2017年、機構からの債権買取りによる支援を受けました。

Point 3 リファイナンス

当行は、機構の支援実施後も、経営改善状況をモニタリングするとともに、経営再建に向けた本業支援に継続して取り組み、事業再生をサポートしました。

同社の経営努力により、業績の改善が図られたことから、2020年6月、当行は機構債権のリファイナンス資金融資を実施しました。

Point 4 中期経営計画策定支援

同社は更なる発展のため、被災した本社工場を冷蔵倉庫として再建する計画を策定しました。当行は中期経営計画の策定支援を通じて、同社の計画実現と経営発展を全面的にバックアップしました。

当行は、計画の実施状況を見守りながら、これからもコンサルティング機能を発揮し、ともに地域活性化に取り組んでまいります。

震災後、「全てにおいて支援しますから、復旧し再建しましょう」と言われたことがどれほど力になったでしょうか。一緒に再建を進めていただき、1年後には商品生産体制が整いました。山形や宇都宮での販売会、仙台駅の物産展、また東京での展示会も販促等の応援をいただきました。被災企業、被災地域、被災した皆さん、この10年本当に大変でした。地域と社会を支えるうえで、金融は重要なキーパーソンです。

これからの変化の時代で、仙台銀行さんには、じもとに密着し、地域と我々の金融支援のみならず、地域のデザインと企業の経営のパートナーとして大きな役割をお願いいたします。



株式会社八葉水産
代表取締役 清水 敏也 様

支店長の声

震災後、経営再建に向けた事業再生にとともに取り組み、様々な苦難を乗り越えながら着実に成果を上げられた、まさに震災復興のシンボル企業です。今後も本部・営業店一体となった「本業支援」を発揮し、被災地金融機関としての役割を果たしていく所存です。

▲左：清水代表取締役
右：小山支店長

気仙沼支店 小山 武夫 支店長

地元企業応援部サポート室の声

同社の再生支援には本部・営業店が連携し、歴代関係者がそれぞれの思いを込めて対応してきました。震災から10年が経過しましたが、当行の「全てにおいて支援する」という姿勢に何ら変化はありません。今後の更なる発展期に向け、ともに歩んでまいります。



創業70周年 ～確かな信頼 これからも～

仙台銀行は、おかげさまで2021年7月5日創業70周年を迎えます。

4月には記念事業の一環として、本店10階と屋上をリノベーションし、職員の集いと憩いのスペースを設けました。

これからも働きがいと働きやすさを両立する組織づくりで「人で勝負する銀行」を実践し、企業力を高めることで、地域の活性化に努めてまいります。

確かな信頼 これからも



緑化も施した屋上バルコニー



トークサロンは会議や懇親の場に

DX推進体制を強化

2021年4月よりIT企画室をDX推進室に名称変更のうえ増員し、推進体制を強化しました。これにより、IT・デジタル技術を活用したサービス提供や業務改革を更に進めてまいります。

ポイント

顧客利便性向上、業務効率化
データ分析活用高度化

新たな生活様式へのデジタル化対応

SBIグループのノウハウを活用、新規技術の導入



SBIグループとの連携による相乗効果発揮

2020年11月、じもとホールディングスでは、経営基盤強化を目的にSBIホールディングスと資本業務提携を結びました。

当行は従来よりSBIグループと連携してまいりましたが、この提携により、更なる相乗効果の発揮を目指しております。

市場運用部門では、2020年12月よりSBIへ職員を派遣し、有価証券運用の知識とノウハウの習得に取り組んでいるほか、本業支援部門では、2021年1月にSBI証券と事業承継・M&A業務に係る業務提携を行い、支援体制の強化を図っています。

 仙台銀行

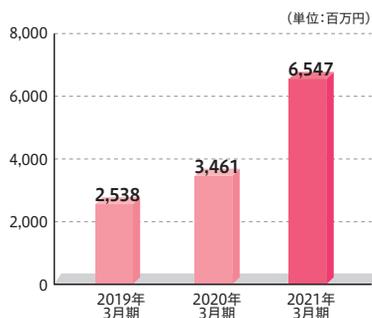
×
 SBI GROUP

その他の主な連携

- 住信SBI住宅ローンの取り扱い
- SBI損保がん保険の取り扱い
- 経営者向け団体信用生命保険の取り扱い
- SBIインベストメント組成ファンドへの出資

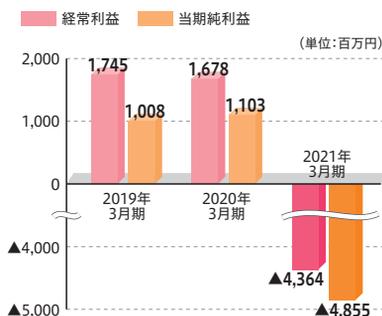
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益や手数料収入等の役務取引等利益が増加したことに加えて、経費が減少したことなどから、前年同期比30億85百万円増加の65億47百万円となりました。



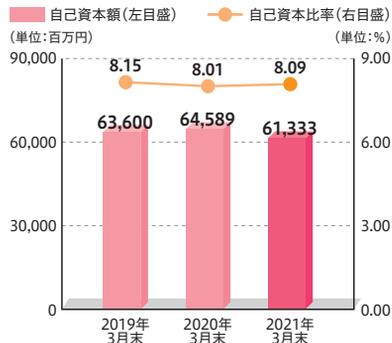
経常利益・当期純利益の状況

経常利益は、有価証券ポートフォリオの見直しに伴い、債券償還損失を計上したことに加え、与信関係費用が増加したこと等から、前年同期比60億42百万円減少の△43億64百万円、当期純利益は前年同期比59億59百万円減少し、△48億55百万円となりました。



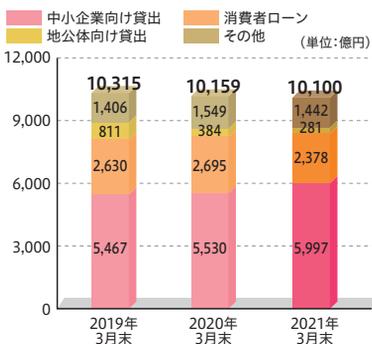
自己資本比率の状況

単体の自己資本比率は、じもとホールディングスとSBIホールディングスの資本業務提携に伴って30億円の資本調達を実施したことなどから、2020年3月末比0.08ポイント上昇の8.09%となりました。



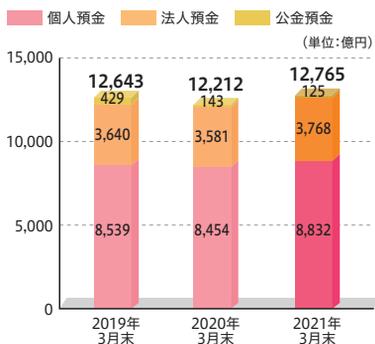
貸出金の状況

貸出金残高は、中小企業向け貸出が増加したものの、消費者ローンが減少したことなどから、2020年3月末比58億96百万円減少の1兆100億25百万円となりました。



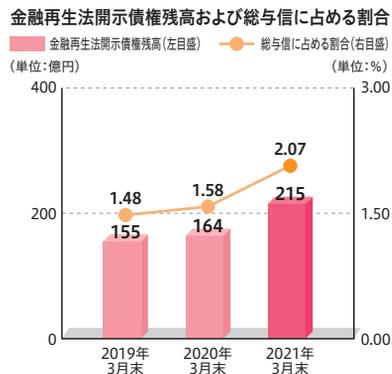
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、新型コロナウイルス感染症に伴う特別定額給付金等によって2020年3月末比552億83百万円増加の1兆2,765億58百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法開示債権の残高は、取引先の業績悪化に伴う債務者区分の変更等から、2020年3月末比50億59百万円増加の215億41百万円となりました。

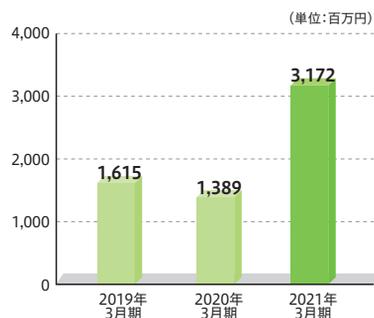


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支のことを指します。

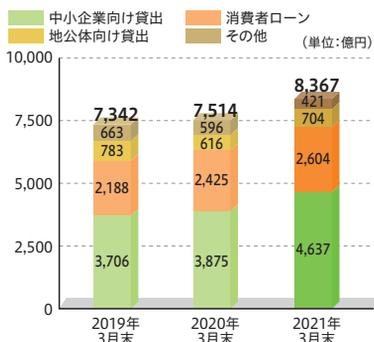
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金の増加による資金利益の増加に加え、役員取引等利益の増加などにより、前年同期比17億83百万円増加の31億72百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、2020年3月末比853億2百万円増加の8,367億79百万円となり、仙台銀行として過去最高の貸出金残高となりました。



経常利益・当期純利益の状況

経常利益は前年同期比8億円増加の19億85百万円、当期純利益は前年同期比8億97百万円増加の17億17百万円となりました。



預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、新型コロナウイルス感染症による特別定額給付金や融資金の歩留まり等により、2020年3月末比936億12百万円増加の1兆1,939億67百万円となりました。



自己資本比率の状況

単体の自己資本比率は、当期純利益の計上及びじもとホールディングスとSBIホールディングスの資本業務提携に伴う5億円の増資により自己資本が増加した一方で、貸出金の増加等によりリスクアセットが増加したことから、2020年3月末と同水準の8.34%となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法開示債権の残高は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う取引先のランクダウン等により、2020年3月末比31億46百万円増加の236億95百万円となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 当期純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

株主の皆様へ

株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年といたします。
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当を行うときは9月30日。
基準日	定時株主総会の議決権の基準日については、3月31日といたします。その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公告方法	電子公告といたします。 【公告掲載ホームページアドレス】 https://www.jimoto-hd.co.jp/ ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞、仙台市において発行する河北新報および山形市において発行する山形新聞に掲載して行います。

株式事務取扱場所

株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	みずほ信託銀行 株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	みずほ信託銀行 株式会社 本店証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 （土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続お取扱店 （住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店、全国各支店 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でも取り扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行（※）およびみずほ銀行の本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります） （※）トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。 〈未払配当金のお支払に関するご注意〉 支払開始の日より満5年を経過してもお受け取りにならないときは、お支払できなくなりますので、お早目にお受け取りください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。 証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

お問合せ先

みずほ信託銀行 株式会社

 **0120-288-324**

上場株式配当等の支払に関する通知書について

租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、2021年分の確定申告の参考資料としてご使用ください。

なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、2021年分の確定申告の参考書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

株式会社 じもとホールディングス
〒980-0811 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
Tel.022-722-0011（代表）
<https://www.jimoto-hd.co.jp/>

株式会社 きらやか銀行
〒990-8611 山形市旅籠町三丁目2番3号
Tel.023-631-0001（代表）
<https://www.kirayaka.co.jp/>

株式会社 仙台銀行
〒980-8656 仙台市青葉区一番町二丁目1番1号
Tel.022-225-8241（代表）
<https://www.sendaibank.co.jp/>